のたろん 新春号

すかっこの 市民活動情報

市民活動がよくわかる

Not Alone　ひとりじゃないよ
みんなで手をつなごう

もうすぐ！

のたろんフェア 2012

2011 2/11 土・12 日
am 10:00 ~ pm 4:00
@ 横須賀市立市民活動サポートセンター

横須賀市内外の
市民公益活動を応援する
のたろんフェアを今年も
開催します！！

福祉や環境、まちづくりなど、
様々な分野で活躍している
市民公益活動団体が活動紹介をし、
市民と交流する市民活動フェアです。
パネル展示や活動紹介、スタンプラリー、
ステージ発表、ミニ体験、活動資金を
支援するフリーマーケット等を行います。

オグリンさんよ～
のたろんフェアが
もうすぐだね～
たのしみだね～

ペリリンさんも
そう思うかね
もおすぐだね～

◆情報誌のたろん　新春号　目次　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【もうすぐ開催！】のたろんフェア 2012　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1P
【報告】2011 年度市民協働推進セミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2P
ひと～市民活動を支える人々～（ぽぴーぐみ・桜井一真さん）／　のたろん便り　高橋亮　・・・・・3P
サポセン機器紹介・貸出備品「プロジェクター」／　コラム　／　サポセントピックス・・・・・・・4P

横須賀市立市民活動サポートセンター 2012 年 1 月 1 日発行

報告

2011 年度　横須賀市 市民協働推進セミナー

持続性のある社会貢献を考える
～熱意のその先にあるもの～

2011 年 11 月 19 日～ 12 月 10 日
毎週土曜日　全４回

のべ参加者数：106 名

「のたろんブログ」にも、報告レポートあります。
あわせてご覧ください。

ご近所力で持続性のある活動を　第１回

横須賀市内では、地域の高齢化を受け、行政では手の届きにくい生活の支援を住民同士で行う活動が生まれてきています。地域での支援は、息の長い活動が求められます。また、活動が地域に浸透し、信頼を得ることも大切です。そのために必要なことは何か。コミュニティの助け合い活動を長く続けている湘南たかとり福祉村の伊藤さんに立ち上げの経緯や現状をお話いただき、パネリストとともに意見を交換しました。

アンケート
- ○自分で考える、悩むことも重要だが、みなさんの苦労されている具体的な内容、対応方法は大変参考になった。
- ○活動の立ち上げの経緯は特に興味深かった。
- ○町内会、自治会長さんたちにも参加して、聞いてほしいと感じた。

持続する事で見えてくるもの　第２回

市内で 10 年以上活動している団体に集まってもらい、継続するためのヒントを学びました。パネリストは「どんぐりの会」「津久井の自然を守る会」「横須賀市民会議」「シニアネット横須賀」のみなさん。それぞれ長年活動していく間には苦労があり、それを受けての工夫があります。そういった知恵を共有するとともに、参加者のみなさんからも問題意識を提示していただきながら、活発な意見交換をする事ができました。

アンケート
- ○資金集めの具体的な例が参考になった。立ち上げ時の苦労等、聞くことができて参考になった。
- ○公的機関とのかかわりなど、よくわかった。
- ○活動を継続していくために、人間関係を円滑にする技などを学ぶ講座を設けてほしい。

被災地への継続的な支援を考える　第３回

あまりに広大で甚大な被害だった東日本大震災。日本中の人たちが何かをしたいと考えましたが、むやみに被災地に行かない、むやみに物資を送らない、という情報もありました。実際に被災地ではどのような状況だったのか、今はどうなのか。被災地に滞在し、長期に渡り支援活動をしているダイナックス都市環境研究所の渡辺さんを講師に迎え、市内で支援活動をしている人たちと継続的な支援のために必要な事を話し合いました。

アンケート
- ○パネリストの支援に対する気持ちがよく伝わった。
- ○「被災地のニーズ把握」「支援団体同士のつながり」がキーワードになると思った。
- ○本日のセミナーをこれだけで終わらせず、今後に活かしてほしい。

コミュニティビジネスの手法から、継続のヒントを学ぶ　第４回

コミュニティビジネス（CB）とは、住民自らが主体となって「こんなものがあれば便利、住みやすくなる、地域がよくなる」という思いがきっかけとなり、地域の課題を解決する手法です。NPO法人コミュニティビジネスサポートセンターの永沢さんを講師に迎え、CBについてわかりやすく解説していただきながら、パネリストとともにCBの手法で活動を継続していくヒントを考えました。

アンケート
- ○コミュニティビジネスということばが身近になった。
- ○有償、無償のすみわけ、大変参考になった。
- ○町内会運営をコミュニティビジネスに置き換えて聞いていました。活動に多くの無駄があることが見えてきた。地域のために活動を考えて行きたい。

● セミナーを終了して・・・●

セミナーの中から見えてきた課題や、もっと掘り下げたいテーマが多く得られた。今後そういった課題やテーマに取り組み、「いいっぱなし」のセミナーにならないようにしていきたい。当日、質問をして時間の関係で回答を得られなかった方は、サポートセンターで分かるようにしてありますので、お問い合わせください。

ひと ～市民活動を支える人たち

横須賀ユースボランティアサークル
ぽぴーぐみ　櫻井一真さん

ドキッとする空き缶のポスター、物静かな内面にアイデアと情熱を持ち合わせるぽぴーぐみリーダーの桜井さんにお話を伺った。

横須賀生まれ横須賀育ちの大学２年生。小学生の頃は、畑で遊んだり、ザリガニ釣りをしたりと自然や生き物とふれあってきた。微生物を学びたいと生物資源科学部に入学。今は、病気の治療に役立つ生理学に関心を持っている。

サポセンとの出会いは、高校１年のとき。先輩に勧められ、始まったばかりの「何かやり隊ヤングマン」というサポートセンターのボランティアプロジェクトに参加した。そして６年間、高校生･大学生対象に「横須賀をどんなまちにしたいか？」というアンケートを行ったり、のたろんフェア実行委員をつとめたり、影に日向に活躍してきた。

「ヤングマン」の活動は、人集めに苦心したこともあった。鷹取山ハイキングの企画は、手描きポスターを各高校に貼ったがなかなか参加者が集まらなかった。清掃活動を前面に打ち出すようになって次第に参加者が増えている。

「活動が続いていくか焦っていた時期もあったけれど、今は後を継いでくれる人がきっと出てきてくれると期待している。」話してくれた。

「落書き消し」の活動を発案した桜井さんは、町と人のつながりに危機感と大きな希望を併せ持っている。自分たちには、近所の人たちとのつながりが希薄だったという。

「今のままだと、いずれ僕らは、ひとりぼっちになってしまう。今のうちから、世代を越えた地域のつながりみたいなものをつくっていれば、これから生まれてくる人たちも含めてつながりを持っていかれるのではないか。」町内の人や、年齢層の離れた団体ともかかわりを持っていきたいという。

「家事介助などの地域福祉の活動をしている団体と、ボランティア活動に関心を持った若い人をつなげていく活動がしたい。」町のことを、フリーペーパーやインターネット使って、同世代の若者に対し発信していきたいと語る桜井さん、2012 年春に向かって古くて新しいことの芽生えを感じた。　（はこざき）

「横須賀ユースボランティアサークル　ぽぴーぐみ」は、市民活動サポートセンター主催の高校生、大学生世代対象のボランティアプロジェクトです。メンバーは、与えられたボランティアをするのではなく、自分達でアイディアを出し合い、企画、運営をして、主体的にボランティア活動を行っています。現在は主に市内の清掃活動を行っています。

not a のたろん便り alone not alo

＊「絆」の次にくる漢字は ＊

年末の恒例に、その一年を漢字で表す行事が定着しました。昨年は「絆」。発表の前に家族で今年の漢字は何か当ててみようと話しましたが、全員が「絆」で異論がでませんでした。昨年ほど家族や友人、人と人の絆を感じた年もないでしょう。その大切さを知った年でした。

今年はどんな漢字になるのでしょう。これからの一年がどんな年になるのかと考えましたが、なかなか想像ができません。こんな漢字が選ばれてほしいという期待はあります。震災からの復興を、未来への希望を、子ども達の笑顔を、経済の回復を、世界の平和を、今年の暮れには、そんな漢字を探せる年になってほしいと心から願います。

サポートセンターと指定管理者の YMCA では、様々な震災支援を続けてきました。帰宅難民の受け入れから始まり、募金活動、震災支援の緊急集会、ボランティアバスへの協力、被災ファミリーの夏休みキャンプ招待、震災支援のセミナー開催など。２月の「のたろんフェア」では、震災支援のパネル展示、被災地作業所の物品販売、そして市の協力も得て、横須賀に避難されている被災民の方々をご招待することが決まりました。３月には「震災から地域のつながりを見直す」市民の集いも開催します。2011 年が終わっても「絆」は大切にしていきたいと思います。

もう一つ今年の大きなテーマは、子ども達と若者支援のネットワークです。サポートセンターと指定管理者 YMCA、そして地域の NPO、教育・福祉関係者、企業、行政の協力で、今年 11 月に児童虐待といじめをテーマにした朗読劇「ハッピーバースデー」の横須賀開催が決まりました。子ども達や若者を地域社会で見守れる、そんな横須賀にしたいという思いで、多くの団体や個人がつながり始めています。これから 11 月まで、地域の関係者が集まり、会合を重ね、プレイベントを行い、ネットワークがつくられていきます。「絆」の次にくる漢字が見えてくるとうれしいです。

横須賀市立市民活動サポートセンター（指定管理者：YMCA コミュニティサポート）館長　高橋亮

横須賀市立市民活動サポートセンターの設備紹介

サポセン豆知識
－機器紹介－
第十五回

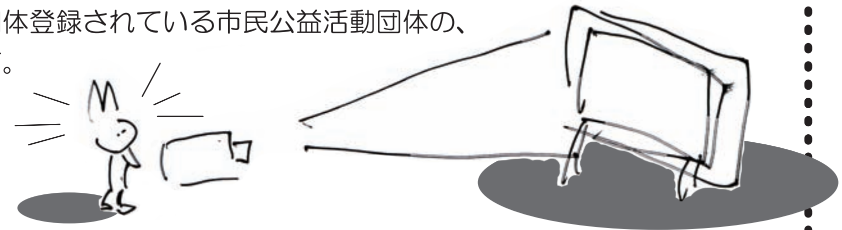
館外・館内貸出備品
プロジェクター

≪液晶プロジェクター≫NEC LT260JK 輝度 2100 ルーメン
プロジェクター本体の他に☆リモコン、モニタケーブル、USB ケーブル、ドライバ CD-ROM、取扱説明書付き☆

勉強会よし！
ビデオやパソコンの画面を大きく投影
講演会よし！

館外貸出のご利用には制限があります。

横須賀市立市民活動サポートセンターに団体登録されている市民公益活動団体の、市内における市民公益活動に利用できます。
利用は１回連続４日間まで、
同一団体の利用は月２回まで。
くわしくは、お問い合わせください。



パソコンにつないで使うときは、事前にテストすることをお薦めします。
スクリーン（1620mm×1220mm）も、貸出ししてます。

まどろみ

つわぶきの花が咲いたから見にいらっしゃいよ、とNさんからお誘いを受けたのは、小春日和の日だった。早々、気の置けない仲間3人と出かけた。お目当ての、一抱えほどのつわぶきの花は、無造作に置かれた庭石に寄り添い、沢山の黄色い花をつけていた。つわぶきの花は、キク科の植物で花を房状に付けるということを、Nさんに教わるまで知らなかった。改めてつわぶきの花に目をやった。

手入れの行き届いた植え込みに、赤やピンクのバラが咲き、あたりはほのぼのとした空気に包まれていた。そんな中で突然、私たちって幸せね、とCさんが切り出した。同感だけれど、今日のように自由な時間はあるが、淋しさと不安、責任がいつも並行しているから、老いの一人暮らしは大変、一人になってつくづく思うわね、とYさん。一番高齢のOさんは、もしや病気に、と思うと夜が一番怖いと言う。

Cさんの一言から話はそれ、独居老人の4人が家のこと、孫のことなど近況を本音で語り合った。これからは自分一人の時間をいかに充実できるか、そんなことを考えながら皆と別れた。楽しいひと時だった。（田中）

*********** サポセンtopics トピックス

☆ユースト配信ってなんだ？☆

のたろんフェア 2012 で ユーストリーム配信中継♪

インターネットを利用して、実況中継が自分でもできちゃう動画配信サービス。2 年前に日本語版のサイトが出来てからどんどん利用者が増えて、今では議会中継や大学の講演会などにも盛んに使われるようになりました。東日本大震災の日に、ユーストリームで情報収集した人も少なくないんじゃないかな….そんなユーストリーム中継を、のたろんフェア 2012 でおこなう予定です。

楽しみだね！

のたろんがお送りするサポセンのこぼれ話！

◆サポセンブログ（カメラ付き携帯で読み取れます）
◆E メール info@yokosuka-supportcenter.jp
◆サポートセンターのホームページ
「のたろん Web」は“のたろん”で検索♪　のたろん　検索

情報誌「のたろん」新春号（通巻 49 号）2012年１月１日
発行 横須賀市立市民活動サポートセンター
編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMCAコミュニティサポート
横須賀市本町 3-27（京浜急行汐入駅徒歩 1 分）
TEL 046－828－3130
FAX 046－828－3132
市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用表のご記入をお願いします。

編集ボランティア／おの・はこざき・たなか　スタッフ／ぬまさき・のぎむら